

## ご利用にあたって

- 1 統計表中の順位は、原則として数値の大きい順につけています。ただし、明らかに数値の小さい方が望ましい項目については、「\*」印を付けて数値の小さい順としています。
- 2 統計表の下欄には、算出方法、調査時点、資料出所を表示しています。
- 3 「関連指標」及び「関連グラフ」部分の資料出所は、原則として主指標と同一です。（主指標と異なる場合にのみ出所を掲載しています。）
- 4 資料の中で、「平成〇年」とあるのは暦年(1月～12月)、「平成〇年度」とあるのは会計年度(4月～翌年3月)を示しています。
- 5 「人口当たり」「面積当たり」などの人口、面積は、原則としてその年次(年度)の10月1日現在のものを用いています。
- 6 分子と分母は、原則として同一年次(年度)のものを使用していますが、資料の入手状況により、一致していない場合があります。
- 7 統計表の数値は、単位未満を切り捨て、または四捨五入しているため、都道府県(市町村)の積み上げと全国計(県計)が一致しない場合があります。また、同一指標であっても、原資料が異なるため、全国指標と鳥取県指標で「数値」が一致しない場合があります。
- 8 「平均」を採用している指標は、原則として、該当地域の分子の合計、分母の合計を用いて計算してあります。例外的に、数値の合計を、単純に該当する地域の数で割った場合は、「☆」印を付け区別しています。(下図を参照)

原則 (例)出生率 等
県平均 … (出生数市町村計) ÷ (人口市町村計)
市平均 … (出生数市部計) ÷ (人口市部計)
郡平均 … (出生数町村計) ÷ (人口町村計)
例外 (例)財政力指数 等
県平均 … (財政力指数市町村計) ÷ (市町村数)
市平均 … (財政力指数市部計) ÷ (市数)
郡平均 … (財政力指数町村計) ÷ (町村数)

- 9 統計表中の符号は次のとおりです。

「0」、「0.0」…………… 単位未満のもの  
「—」…………… 該当数字がないもの、ゼロ  
「△」…………… 減少、マイナス

- 10 凡例の意味は次のとおりです。

「a ~ 」…………… 「a 以上」  
「a ~ b」…………… 「a 以上 b 未満」  
「~ b」…………… 「b 未満」